

第70回沖縄県高等学校野球秋季大会

令和2年9月20日（日）～10月11日（日）

主催：一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

共催：沖縄タイムス社

琉球放送株式会社

後援：沖縄県教育委員会

朝日新聞社

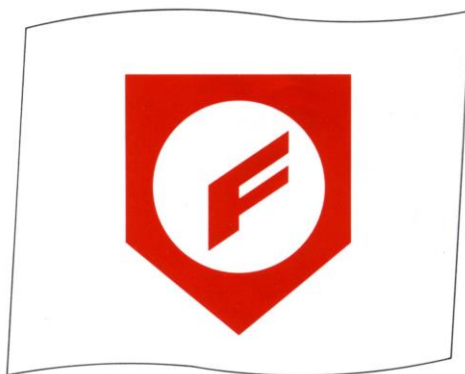
会場：コザしんきんスタジアム

沖縄セルラースタジアム那覇

Agreスタジアム北谷

大会要項

<9月12日改定>



※新型コロナウイルス感染状況によっては、内容を変更することもあります。

一般財団法人

沖縄県高等学校野球連盟

第 70 回 沖縄県高等学校野球秋季大会 大会要項

主 催：一般財団法人
沖縄県高等学校野球連盟
共 催：沖縄タイムス社
琉球放送株式会社
後 援：沖縄県教育委員会
朝 日 新 聞

1. 期 日 令和2年9月20日(日) ～ 10月11日(日)

2. 会 場 コザしんきんスタジアム 沖縄市諸見里2-1-1
沖縄セルラースタジアム那覇 那覇市奥武山町4-2-1
Agre スタジアム北谷 北谷町字美浜2番地

3. 大会申し込み 本大会に参加を希望する加盟校は、沖縄県高野連 HP (<http://www.kouyaren-okinawa.jp>) に掲載されている所定の選手資格証明書を13部(押印はコピーした後に行うこと。)作成し下記宛に提出して下さい。◎印なども忘れずに記入して下さい。なお、独自に作成した証明書を提出した場合は、再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。

提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜2-25-1 県立 **宜野湾** 高等学校内
一般財団法人 沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛

4. 申し込締切り 令和2年9月7日(月) 正午までに提出。以後は理由を問わず受け付けません。

5. 抽 選 会 令和2年9月11日(金)
午後2時 会場：北中城村立中央公民館 北中城村字仲順435 TEL098-935-3773

①参加者は各参加校の責任教師または監督のうち一人、および大会役員。

6. 大会諸経費 ①入場整理券(大人500円、中高生200円)をもって充当する。
②中高生の団体割引については、引率者を含む20名以上は100円とする。
③剰余金が生じたときは、本連盟運営費に繰り入れ、不足の時は同運営費から充当する。

7. 大会組織 及び運営 ①参加校は日本高等学校野球連盟に加盟している学校代表チームによって行う。
②主催者で運営委員会を組織し、大会運営に万全を期す。
③大会役員は運営委員会で適任者を選び委嘱する。審判委員は県高野連審判部が担当する。

8. 申込み後の 選手登録変更 登録選手の変更があるときは、下記①、②いずれかの要領で所定の様式を10部提出して下さい。
必ず校長印と校医印を押してください。

①9月19日(土)まで・・・下記提出先へ、9月19日(土)12時までに郵送等で提出。

提出先 〒901-2224 宜野湾市真志喜2-25-1 県立 **宜野湾** 高等学校内
一般財団法人 沖縄県高等学校野球連盟 理事長 中村 健 宛

②9月20日(日)10時までに、コザしんきんスタジアムの大会本部に提出。

※9月20日(日)当日に試合のあるチームは、当該試合会場内の大会本部に、貴チームの試合開始予定時刻1時間前までに提出して下さい。

上記②以降は、受け付けません。

9. 表彰及び派遣 ①優勝校へは賞状、優勝旗、優勝楯を授与する。
②準優勝校へは賞状、代表旗、準優勝楯を授与する。
③本大会の優勝校及び準優勝校は長崎県で開催される第147回九州地区高等学校野球大会【10月31日(土)～11月6日(金)】に出場させる。
10. 補欠校順位戦 決勝戦の前に、準決勝で敗退した2校による「九州大会派遣補欠校順位戦」を行う。順位戦の詳細については、追ってお知らせいたします。
11. 開 会 式 開会式は実施しません。
12. 閉 会 式 決勝戦終了後、優勝、準優勝の両校で行なう。

第 70 回沖繩県高等学校野球秋季大会 細則

1. 試合規則は、2020 年公認野球規則と大会特別規定により運営する。
2. 選手資格は、令和 2 年 4 月 2 日現在で満 18 才（平成 14 年＝2002 年 4 月 2 日以降の出生者）以下の者。
3. 大会期間中の不測の負傷または疾病に対して、主催者は応急の手当を施す他は責任を負わない。
4. 第 1 試合の出場チームは、試合開始90分前には所定の球場に到着し、大会本部よりオーダー用紙を受け取り記入後、直ちに提出すること。その後放送により責任教師・主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。（オーダー用紙交換は試合開始50分前に行なう。）
5. 第 2 試合目以降の出場チームは、球場到着後、大会本部でオーダー用紙を受け取り、4 回終了までに大会本部に提出すること。オーダー用紙交換は 5 回終了後に行なう（放送を行なう）。責任教師と主将は本部役員・審判委員の指示に従って攻守を決める。選手はいつでも試合ができるよう準備しておくこと。
6. ベンチサイドは、抽選番号の若いチームを一塁側とする。
ベンチには登録の責任教師 1 名、副責任教師 1 名、監督 1 名、選手 20 名、記録員 1 名の計 24 名以内とする。
7. 責任教師か副責任教師がノックした後は、平服に着替えベンチに入ること(高野連スタッフシャツも可)。
8. 試合前のシートノックは 7 分間。ノック時の補助選手は 5 名までとし、必ずヘルメットを着用すること。又、登録メンバー以外は、ノックを受けたり守備に入ってはいけない。
9. シートノック時のノッカーは、選手と同じユニフォームを着用し、黒か白のスパイクまたはシューズとする。補助選手も試合用ユニフォームを着用すること。
10. 記録員は男女にかかわらず、自校の制服を着用すること。複数の記録員のいる場合は毎試合代わってもよい。
11. 打者・走者ともに危険防止のため、必ず SG マーク（経産省認可）両耳付きヘルメットを着用する。
12. 捕手は防護用ヘルメット（SG マーク付）とスロートガード（のど部分の防護具）、カップを必ず使用すること。また、練習時を含め、捕手は座って投球を受けるときは必ず捕手用具一式を着用すること。
13. 試合中、攻守交代は全力疾走に徹すること。
14. 攻撃側の選手は、次打者・ランナーコーチ以外はベンチから出ないこと。次打者席には、必ず次打者が入り、投手が投球姿勢に入ったら素振りを止める。危険防止のため、グラウンド内にいる全ての選手（特に次打者、ブルペンの選手）は投手が投手板に位置したならばプレイに注目すること。
15. ベンチ内のメガホンは 1 個のみとする（監督のみ使用）。
16. グラウンドに入ってアップを開始するときは、試合用のユニフォームを着用すること。人員は 25 名以内とする。
17. 危険防止のため、球場内におけるフリーバッティング、ハーフバッティングは禁止する。また、球場内においてのウォーミングアップ及びランニングで外野の芝生を使用する際は、アップシューズを使用すること。
18. 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2 組（4 人）まで並列とし、ゴロの捕球練習は認めない。
19. 野球用具の使用については、日本高等学校野球連盟の用具使用制限に適合したものを使用すること。
《応援団について》
 1. 大会期間中の応援団の行動は、責任教師がその責任を負う。
 2. 手指消毒の徹底やソーシャルディスタンスの確保など感染拡大防止に努めること。
 3. 応援の扇動、声を出しての応援や指笛、鳴り物(太鼓含む)等を禁止する。
 4. 応援団は、試合中は場内の整理と感染拡大防止、試合終了後はスタンドの清掃と消毒に協力する。
 5. 個人名や校名を記入したノボリ等、テープ・紙ふぶき等、は禁止する。
 6. 応援団の校章旗・横断幕等は指定場所に掲げること。

大会特別規定

1. シートノックは試合前、大会本部の指示に従い行うこと。制限時間は7分間とする。補助員5名以内と補助ノッカー1名を認める。但し、時間の都合や感染状況等により、短縮または行わないこともある。
2. **本大会はタイブレーク制度を採用する。タイブレークは13回、無死1塁・2塁からとし、打順は12回終了時の打順を引き継ぐものとする。**
3. **1週間500球以内の投球とする。**
4. 本大会では、コールドゲームを次のとおり定める。
 - ①得点差によるものは、5回以降10点以上、7回以降7点以上の得点差が生じた場合。
 - ②降雨または日没、その他の事情で試合の続行が不可能になった場合は、審判委員が試合の打ち切りを命じ両チーム共に7回の攻撃を完了するか、或いは先攻チームが7回を終わった得点より後攻チームの6回までの得点が多い場合はコールドゲームを適用する。6回以前であればノーゲーム(再試合)とする。
 - ③**決勝戦には、コールドゲーム・タイブレークは適用しない。**
試合が延長戦に入った場合は、15回で打ち切り、後日以降に改めて再試合を行う。
ただし、決勝の再試合ではタイブレーク制度を採用する。
5. 最終試合の開始時刻は日没2時間30分以前とするが、当日の天候その他を考慮して主催者が決定する。また、日没15分前からは新しいイニングに入らない。
6. 降雨等中断後、30分毎に判断し、グラウンド整備を行ない90分をめぐり試合続行が可能な場合は再開し、不可能と判断した場合は中止とする。
7. 試合中、攻撃側選手に不慮の事故などが起き、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判委員が判断した時は、相手チームに事情を説明し臨時的代走者を許可することができる。この代走者は試合に出場している選手に限られ、チームに指名権はない。
 - ・臨時代走はその代走者がアウトになるか、得点するか、またはイニングが終了するまで継続する。ただし、塁上にいる臨時代走者が次打者となるケースにおいては、その臨時代走者に代えて打撃を完了した直後の者を新たな臨時代走者とする。
 - (1) 打者が死球などで負傷した場合
投手を除いた選手のうち、打撃を完了した直後の者とする。
 - (2) 塁上の走者が負傷した場合
投手を除いた選手のうち、その時の打者を除く打撃を完了した直後の者とする。(参考) 臨時代走者の記録上の取り扱いは、盗塁、得点、残塁などすべてもとの走者の記録として扱われる。
8. 審判委員の判定には、絶対に抗議することはできない。但し、ルール適用の過ちがおきた場合は申し出ることができる。疑義を申し出る場合は主将、伝令、または当該選手に限る。
9. 審判委員へのアピールは、必ず主将及びそのプレーの当事者が行なうこと。
10. 試合中トラブルが生じ、試合続行が不可能な場合は、トラブルを引き起こしたチームを敗者とし、没収試合とする。
11. 打者がバッターボックスに入る時や投手が審判委員からボールを受け取る際は、帽子を取って礼をする必要はない。
12. 試合中は、ベンチ入りできない者(登録選手以外の部員・OB・保護者等)をベンチや選手控え室に出入りさせたり、ベンチ周辺に近づけない。
13. 携帯電話はベンチに持ち込まない。
14. 走者やベースコーチ等が捕手のサインを見て、声やジェスチャーで打者にコースや球種を教える等の行為を禁止する。
15. サイズの大きい走者用手袋の使用とグラブの手首へのリストバンド装着は認めない。

第 70 回沖縄県高等学校野球秋季大会開催細則

1. 開 会 式

開会式は実施しません

2. 閉 会 式

- 1 決勝戦終了後、優勝チーム、準優勝チーム、大会役員、審判委員、来賓で行う。
- 2 決勝戦が終わり次第、両チームの選手は投手板を中心にバックネットに向かって一列横隊に整列する。
- 3 大会役員、審判委員、来賓及び両校の校長、責任教師(正副)、監督はバックネット前に整列する。

閉会式次第	進	行	新垣 健一	(高野連 総務部長)
1 開				会
2 成 績 発 表				
3 表 彰	大 会 長	岩 崎 勝 久	(高 野 連 会 長)	
4 大 会 長 挨 拶	大 会 長	岩 崎 勝 久	(高 野 連 会 長)	
5 激 励 の こ と ば	大 会 副 会 長	中 村 一 彦	(琉球放送株式会社代表取締役社長)	
6 国 旗 並 び に 大 会 旗 降 納				
7 閉 会 宣 言	大 会 副 会 長	仲 山 久 美 子	(高 野 連 副 会 長)	

第70回沖縄県高等学校野球秋季大会 競技役員

顧問	知念 繁夫 新屋 太郎 宜野座 嗣郎 國吉 眞介 宮里 景眞 狩俣 幸夫 砂川 恵重 赤嶺 研雄 我如古 清 玉城 崇 志良堂 芳男 前新 健 神谷 孝 森田 邦弘 前新 出 上原 昇 平良 章次 金城 弘昌 (県教育委員会教育長) 木村 司 (朝日新聞社那覇総局長) 遠藤 孝康 (毎日新聞那覇支局長)
参加校校長	太田 守克 (県教育庁保健体育課長)
大会 会長	岩崎 勝久 (県高野連会長)
大会 副会長	川畑 三矢 (県高野連副会長) 仲山久美子 (県高野連副会長) 新城 英人 (県高野連副会長) 武富 和彦 (沖縄タイムス社代表取締役社長) 中村 一彦 (琉球放送株式会社代表取締役社長)
運営委員長	中村 健 (県高野連理事長)
運営委員長補	上間理博 (県高野連副理事長)
運営副委員長	町原尚忠 (県高野連常任理事) 渡久地政国 (県高野連常任理事) 照屋圭二郎 (県高野連常任理事) 上原健吾 (県高野連常任理事) 名渡山直子 (県高野連常任理事)
運営委員	
総務部 部長	新垣 健一
総務部 副部長	瀬底 智樹 徳山 篤史 國吉 大志
技術部 部長	川上 琢也
技術部 副部長	田里 友哉 米須 清祐 川平 優次
審判部 部長	多嘉山 太
審判部 副部長	西銘 健一 山城 明男 島袋 俊哉
記録情報部 部長	神里 大一
記録情報部 副部長	仲間 広美 濱元 良人 佐久原 大志

競技役員

	城間恒寿	中村敦	藤木淳平		新田伸	山鹿勝廣	
	中本昌弥	津山嘉都真			宮里淳	城間克也	
	奥濱正	宮城岳幸	高良耕平		松本輝		
	當銘樹	砂辺紗綾			山城和也	上原正昭	
	伊良波泰	知念邦睦	西村レオナ		下地克也	伊集幹郎	
	比賀智二	安富大志	岸本拓馬		大城英健	比嘉公也	伊志嶺大吾
	宮里義浩	新垣隆夫	安里大作		喜瀬民男	知名淳	
	森澤征一郎	嘉数汰一	當間栄作		崎浜秀治		
	新川将太	伊波大吾	東佳奈子		吉元嘉邦	大川基樹	糸数辰信
	前濱範一	津留直樹	宮城耕治		親川聖	山田義二	金城比呂子
	仲松志朗				町田宗毅	比嘉かやの	
	藏本哲雄	東亮			大城康成	洲鎌弘樹	仲川和充
	仲宗根寛史	仲與根清十郎			仲里武史	神谷俊郎	
	山城孝文	仲里真澄	具志堅興律		嘉数節	伊禮隼	岸本亘史
	大嶺祐介	米須清大	喜友名司		天願恒	照屋拓己	
	大浦陸	島袋春樹	兼城翔太		大浜英康	伊藝修策	親泊達也
	末吉昇一	喜舎場正太	諸喜田わかこ		高安剛	瀬名波幹智	花城涼香
	中山慎	大城康弘	伊佐優歩		山内一尚	大城浩二	
	宮里健二	島袋善之			長濱隆史	森根太	町田幸男
	知念正仁	田原伸繁	比嘉真貴子		神里正太	大城一基	上原忠
	浦添広志	神谷嘉宗			川満翔太	仲宗根聖子	
	長嶺由騎	山里貞俊	上地愛美		眞玉橋元博	眞玉橋治	山城元子
	津波直仁	宮城竹千代	川端克大		宮里友也	平良隆訓	具志飛馬
	川満亨	久高健			大城盛隆	石塚年勝	大城貴史
	比嘉秀策	嶺井政彦	當銘葵		平良栄二	豊原啓人	粟國優貴子
	中村武志	池宮城朗	大蔵宗元		照屋良樹	前川等	石垣亮
	福中直人	奥田誠吾	福治聖		伊舎堂英樹	大嶺真	赤堂秀馬
	平安優子	新垣隆	兼島功一		砂川玄隆		
	天願正宗	金城聡	平良博志		新里拓	兼島兼哲	與那城吾朗
	志良堂哲也	城間直美			上原八重子	新里和久	渡久山玄介
	神里武弥	野原潤一			内間忍		
	眞栄田聡	我喜屋優	砂川太		上原拓	勝馬あずさ	友利佳史
	藤井智	阿波連仁			照屋ケオキ	岸本幸彦	
	金城幸伸	安富勇人	喜屋武隼人		前城大悟	神山剛史	瀬名波敦
	眞玉橋長郎	宮城隼人	照屋実理		島袋斗弥	五十嵐康朗	田中康二
	大城貴宏	前川栄人			新垣洸二		
	富川盛章		岸本敬		外間一先		仲本賢一郎
	金城由貴子		多和田真		伊計千夏		福原修

第 70 回沖繩県高等学校野球秋季大会

審判委員

審判委員長 多嘉山 太 (県高野連審判部部長)
 審判副委員長 西銘 健一 (県高野連副審判部副部長)
 山城 明男 (県高野連副審判部副部長)
 島袋 俊哉 (県高野連副審判部副部長)

審判幹事 平良 章次 島袋 恭一 国仲 吉川 町田 幸男
 譜久村 淳一 安富 薫 比嘉 安孝 玉代勢 秀人
 座喜味 治 国仲 直彦 玉城 健

審判委員 沖縄県高等学校野球連盟 審判部

多嘉山 太	山城 明男	島袋 俊哉	西銘 健一
平良 章次	島袋 恭一	国仲 吉川	町田 幸男
譜久村 淳一	安富 薫	比嘉 安孝	玉代勢 秀人
座喜味 治	国仲 直彦	玉城 健	喜納 清一
西村 洋	眞壁 朝善	屋宜 充	宮里 浩
我喜屋 宗彦	澤岷 安邦	喜友名 功博	上原 幸光
嘉数 正重	島袋 英治	兼次 誠	大城 雄一
仲本 盛和	金城 明樹	玉城 朋広	小笠原 大弥
大浜 拓郎	平田 英樹	平良 大輝	下里 大成
西野 僚真	岸本 幸大	野原 修恒	西江 忠志
山田 健登	嘉陽 宗彦	福原 恒健	又吉 博一
具志堅 興律	嶺井 直樹	天村 聖	平良 隆訓
野原 潤一	津留 数節	中川 等	外間 泰樹
田原 伸繁	嘉数 尚伸	親前 名淳	平良 春二
眞玉橋 元博	町原 達也	知名 基樹	伊良波 圭二郎
吉元 嘉邦	新田 誠吾	大川 添民	照屋 拓己
宮里 理博	金城 年勝	喜浦 添宗	照屋 満亨
上間 勝毅	石塚 長郎	浦大 蔵宗	川城 亮哉
町田 誠史	眞玉橋 念正	大大 城盛	東城 幸哉
長山 篤二	安座間 竜友	大大 城和	玉城 良人
平良 栄大	田里 琢也	大山 城康	濱元 浩二
安富 健志	川上 大志	大津 山嘉	大城 政国
上原 真吾	國吉 幸一	宮里 健二	山里 貞俊
仲里 大作	神里 大拓	高良 耕平	喜友名 啓人
佐久原 大志	上原 弘樹	伊當 銘拓	豊原 賢一郎
安富 勇也	洲鎌 祐介	岸本 嶺	仲金城 裕介
川平 優次	與那城 吾善	大嶺	大城 一基
赤堂 秀馬	島袋 善之		

